

## 4 行列式

高校で学んだように 2 次行列  $A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$  に対し  $ad - bc$  という量は逆行列の存在を判定できる等、重要な量であった。これを一般の  $n$  次行列に対しても定義するというのがこの章の目的である。

### 4.1 3 次行列の行列式

2 次の行列  $A = \begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} \\ a_{21} & a_{22} \end{pmatrix}$  に対しその行列式  $\det(A)$  を  $\det(A) = a_{11}a_{22} - a_{12}a_{21}$  で定義する。高校では「行列式」という言葉は出て来ていないが、実際には、行列式は次の性質を持つ事を (少なくとも数学 C を選択した学生は) 学んでいる；行列式  $\det(A)$  は『 $A$  が逆行列を持つ  $\iff \det(A) \neq 0$ 』という性質を持つ。このような性質を持つものを 3 次の行列に対しても定義したい。そのために 2 次の場合行列式とはどのようなものかを見直してみる。幾何的ベクトルも考えるので、この節ではしばらく行列の成分は実数としておく。

幾何的には「有効面積」と考えられる。 $a = \begin{pmatrix} a_{11} \\ a_{21} \end{pmatrix}$ ,  $b = \begin{pmatrix} a_{12} \\ a_{22} \end{pmatrix}$  とおく。 $\det(A) = \det(a, b)$ , 即ち 2 つの 2 次元ベクトルの組に対し実数が対応していると考え。  $a$  と  $b$  が張る平行 4 辺形の面積と考えられる。「有効」の意味は  $a, b$  が右手系をなしているとき正、左手系をなしているとき負をである状況を表現している。

代数的には次の性質を持つ実数への写像と考えられる。

- (1) [多重線型性]  $\det(a, b)$  は各成分に関して線型である；
  - 1) 任意のベクトル  $a, a'$  に対し  $\det(a + a', b) = \det(a, b) + \det(a', b)$
  - 2) 任意のベクトル  $a$  と任意の実数  $\alpha$  に対し  $\det(\alpha a, b) = \alpha \det(a, b)$
  - 1') 任意のベクトル  $b, b'$  に対し  $\det(a, b + b') = \det(a, b) + \det(a, b')$
  - 2') 任意のベクトル  $b$  と任意の実数  $\alpha$  に対し  $\det(a, \alpha b) = \alpha \det(a, b)$
- (2) [交代性]  $\det(b, a) = -\det(a, b)$
- (3) [基本ベクトルに対する値]  $e_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}$ ,  $e_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}$  とすると  $\det(e_1, e_2) = 1$

逆にこの 3 つの性質は行列式を特徴づける。実際 2 次元ベクトル 2 個の組に対し実数を対応させる写像  $D(a, b)$  が (1), (2), (3) の性質を持てば  $D(a, b) = \det(a, b)$  である。

演習問題 4.1  $D(a, b)$  が (1), (2), (3) の性質を持てば  $D(a, b) = \det(a, b)$  である事を示せ。

3 次行列に対して行列式を定義しよう。最初に代数的な立場から考えよう。3 次行列  $A = \begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & a_{13} \\ a_{21} & a_{22} & a_{23} \\ a_{31} & a_{32} & a_{33} \end{pmatrix}$

に対し, これを 3 次元ベクトル 3 個の組と考える。

即ち  $\mathbf{a}_1 = \begin{pmatrix} a_{11} \\ a_{21} \\ a_{31} \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{a}_2 = \begin{pmatrix} a_{12} \\ a_{22} \\ a_{32} \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{a}_3 = \begin{pmatrix} a_{13} \\ a_{23} \\ a_{33} \end{pmatrix}$  とするとき,  $A = (\mathbf{a}_1 \mathbf{a}_2 \mathbf{a}_3)$  と見る。

3 個のベクトルの組  $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3$  に対し実数を対応させる写像  $\det(\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3)$  が次の性質を持つとする。

- (1) [多重線型性]  $\det(\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3)$  は各成分に関して線型である ;
- 1) 任意のベクトル  $\mathbf{a}_1, \mathbf{a}'_1$  に対し  $\det(\mathbf{a}_1 + \mathbf{a}'_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3) = \det(\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3) + \det(\mathbf{a}'_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3)$
  - 2) 任意のベクトル  $\mathbf{a}_1$  と任意の実数  $\alpha$  に対し  $\det(\alpha \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3) = \alpha \det(\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3)$
  - 1') 任意のベクトル  $\mathbf{a}_2, \mathbf{a}'_2$  に対し  $\det(\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2 + \mathbf{a}'_2, \mathbf{a}_3) = \det(\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3) + \det(\mathbf{a}_1, \mathbf{a}'_2, \mathbf{a}_3)$
  - 2') 任意のベクトル  $\mathbf{a}_2$  と任意の実数  $\alpha$  に対し  $\det(\mathbf{a}_1, \alpha \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3) = \alpha \det(\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3)$
  - 1'') 任意のベクトル  $\mathbf{a}_3, \mathbf{a}'_3$  に対し  $\det(\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3 + \mathbf{a}'_3) = \det(\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3) + \det(\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}'_3)$
  - 2'') 任意のベクトル  $\mathbf{a}_3$  と任意の実数  $\alpha$  に対し  $\det(\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \alpha \mathbf{a}_3) = \alpha \det(\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3)$
- (2) [交代性]  $\det(\mathbf{a}_2, \mathbf{a}_1, \mathbf{a}_3) = -\det(\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3)$ ,  $\det(\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_3, \mathbf{a}_2) = -\det(\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3)$
- (3) [基本ベクトルに対する値]  $\mathbf{e}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{e}_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{e}_3 = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$  とすると  
 $\det(\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2, \mathbf{e}_3) = 1$

命題 4.1  $\det(\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \mathbf{a}_3)$  が上の (1), (2), (3) を満たすとき

$$\det(A) = a_{11}a_{22}a_{33} + a_{12}a_{23}a_{31} + a_{21}a_{32}a_{13} - a_{13}a_{22}a_{31} - a_{12}a_{21}a_{33} - a_{11}a_{23}a_{32}$$

となる。

あとで見るように一般の  $n$  に対しては代数的な立場から拡張を行うが, 3 次元においては幾何的な見方も重要である。次に幾何的に拡張を考えよう。

3 つのベクトル  $\mathbf{x} = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{y} = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \\ y_3 \end{pmatrix}$ ,  $\mathbf{z} = \begin{pmatrix} z_1 \\ z_2 \\ z_3 \end{pmatrix}$  に対し,  $A = (\mathbf{x} \mathbf{y} \mathbf{z})$  と見るのは

代数的な場合と同じである。 $\det(\mathbf{x}, \mathbf{y}, \mathbf{z})$  を  $\mathbf{x}, \mathbf{y}, \mathbf{z}$  が張る平行 6 面体の「有効体積」で定義する: 即ち絶対値は体積で,  $\mathbf{x}, \mathbf{y}, \mathbf{z}$  が右手系のときは正, 左手系のときは負とする。これが代数的見方のときあげた (1), (2), (3) を満たすので同じものを定義している事が分かる。

ここで 3 次元ベクトルに対し外積 (outer product) (またはベクトル積 (vector product)) を定義する。 $\mathbf{x}$  と  $\mathbf{y}$  に対し絶対値が  $\mathbf{x}$  と  $\mathbf{y}$  の張る平行 4 辺形の面積で,  $\mathbf{x}, \mathbf{y}$  と直交するベクトルを  $\mathbf{x} \times \mathbf{y}$  とする。ただし,  $\mathbf{x}, \mathbf{y}, \mathbf{x} \times \mathbf{y}$  が右手系をなすものとする。

命題 4.2  $\det \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} = \begin{vmatrix} a & b \\ c & d \end{vmatrix}$  と書く事にする。  $x = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix}$ ,  $y = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \\ y_3 \end{pmatrix}$  に対し

$$x \times y = \begin{pmatrix} \begin{vmatrix} x_2 & y_2 \\ x_3 & y_3 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} x_3 & y_3 \\ x_1 & y_1 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} x_1 & y_1 \\ x_2 & y_2 \end{vmatrix} \end{pmatrix}$$

が成立する。

証明  $x$  と  $y$  の内積を  $(x, y)$  と表す。  $x$  と  $y$  のなす角を  $\theta$  とすると,  $(x, y) = |x||y| \cos \theta$  である。  
 $x$  と  $y$  の張る平行 4 辺形の面積を  $S$  とすると,  $S^2 = (|x||y| \sin \theta)^2$  より,  $S^2 = |x|^2|y|^2 - (x, y)^2$   
 を得る。これを計算すると,  $S^2 = \begin{vmatrix} x_2 & y_2 \\ x_3 & y_3 \end{vmatrix}^2 + \begin{vmatrix} x_3 & y_3 \\ x_1 & y_1 \end{vmatrix}^2 + \begin{vmatrix} x_1 & y_1 \\ x_2 & y_2 \end{vmatrix}^2$  で  $|x \times y|$  は平行 4 辺  
 形の面積になる。

内積  $(x \times y, x)$ ,  $(x \times y, y)$  はそれぞれ 0 になるので  $x \times y \perp x$ ,  $x \times y \perp y$  が分かる。また  $e_1 \times e_2 = e_3$   
 より  $x, y, x \times y$  が右手系をなす事が分かる。 ■

命題 4.3 外積は次の性質を持つ写像と考えられる。

(1) [多重線型性]  $x \times y$  は各成分に関して線型である ;

- 1) 任意のベクトル  $x, x'$  に対し  $(x + x') \times y = x \times y + x' \times y$
- 2) 任意のベクトル  $x$  と任意の実数  $\alpha$  に対し  $(\alpha x) \times y = \alpha(x \times y)$
- 1') 任意のベクトル  $y, y'$  に対し  $x \times (y + y') = x \times y + x \times y'$
- 2') 任意のベクトル  $y$  と任意の実数  $\alpha$  に対し  $x \times (\alpha y) = \alpha(x \times y)$

(2) [交代性]  $y \times x = -x \times y$

(3) [基本ベクトルに対する値]  $e_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ ,  $e_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$ ,  $e_3 = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$  とすると

$$e_1 \times e_2 = e_3, e_2 \times e_3 = e_1, e_3 \times e_1 = e_2$$

逆にこの 3 つの性質で外積は特徴付けられる。

命題 4.4  $\det(x, y, z) = (x \times y, z)$  が成立する。

命題 4.5  $A = (x \ y \ z)$  に対し

$$\tilde{A} = \begin{pmatrix} (e_1 \times y, z) & (e_2 \times y, z) & (e_3 \times y, z) \\ (x \times e_1, z) & (x \times e_2, z) & (x \times e_3, z) \\ (x \times y, e_1) & (x \times y, e_2) & (x \times y, e_3) \end{pmatrix}$$

とおくと  $\tilde{A}A = \det(A) \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$

この命題は計算により出てくる。これを用いると次が得られる。

演習問題 4.2 命題 4.3, 4.4 及び命題 4.5 を証明せよ。

定理 4.6 行列  $A$  に対し命題 4.5 で定義された  $\tilde{A}$  を考える。このとき  $A\tilde{A} = A\tilde{A} = \det(A) \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$

である。特に  $\det(A) \neq 0$  とのとき逆行列が存在して  $A^{-1} = \frac{1}{\det(A)}\tilde{A}$  である。

証明 今  $\det(A) \neq 0 \iff \det(\tilde{A}) \neq 0$  を仮定する<sup>(1)</sup>。この仮定の下で  $\det(A) \neq 0$  のとき  $A^{-1} = \frac{1}{\det(A)}\tilde{A}$  が出て来る。 $\frac{1}{\det(A)}\tilde{A}A = E_3$  は計算より出て来るので  $A\frac{1}{\det(A)}\tilde{A} = E_3$  を示す。 $\tilde{A}$  にこの定理を適用すると、 $\tilde{A}\tilde{A} = \det(\tilde{A})E_3$  が得られる。 $(\tilde{A}\tilde{A})A = \tilde{A}(\tilde{A}A)$  であるが、 $(\tilde{A}\tilde{A})A = \det(\tilde{A})E_3A = \det(\tilde{A})A$ ,  $\tilde{A}(\tilde{A}A) = \tilde{A}\det(A)E_3 = \det(A)\tilde{A}$  より  $\frac{1}{\det(\tilde{A})}\tilde{A}\tilde{A} = \frac{1}{\det(A)}A$  を得る。

$$A\frac{1}{\det(A)}\tilde{A} = \frac{1}{\det(\tilde{A})}\tilde{A}\tilde{A} = E_3$$

---

<sup>(1)</sup>後で示すが  $\det(\tilde{A}) = \det(A)^2$  が成立する。